

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870902489		
法人名	医療法人社団 健癒会		
事業所名	グループホーム ふれあいの家		
所在地	兵庫県西宮市山口町船坂字下ヶ平柏木谷1825-3		
自己評価作成日	平成26年9月20日	評価結果市町村受理日	平成26年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成26年10月2日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

できるだけ日常生活を自分自身で行えるよう支援しながら「その人らしく」生き活きと安心して暮らしていただけるように、一人ひとりの現状を把握しご本人やご家族の意向を伺いながらニーズや支援方向を職員間で話し合い、より良いケアに繋げるよう努力しています。季節感を失わないように毎月行事を開催し、時には外出支援にて地域の人と触れ合う機会を設けています。自然に囲まれた環境で天候の良い日は施設外周を散歩し筋力低下防止や気分転換を図り、多彩なメニューと栄養バランスの摂れた美味しい食事、手作りの菓子や果物をおやつとして提供して好評いただいています。介護老人保健施設やデイケアが併設されており、多職種の職員から専門的アドバイスや医療連携体制を図り、健康管理、栄養管理、生活リハビリに力を入れられるのも強みです。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然に恵まれた環境にあり、介護老人保健施設、デイケア等が併設され介護サービスを複合的に提供している。自立支援を目指しながら、「その人らしく」暮らせるよう、利用者一人ひとりの能力評価を行い、役割づくりのための場面設定や声かけを行っている。毎月担当者を決めてイベントを計画し、花見や紅葉狩り等で季節感を失わないよう、また、地域の秋祭り見物等で地域の人達と触れ合う機会を設けている。職員が働きやすい職場環境づくりに努め、職員間のチームワークも良い。また、職員研修に積極的に取り組み、職員の資質向上に努めている。医療法人が運営母体となっており、医療面でも利用者・家族に安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念、実践目標を常に確認できるよう玄関ホールに壁に掲示し、日常的なケアの中で実践につなげている。職員会議やカンファレンス等で話し合いの場を設け、職員間で理念を共有し浸透できるよう取り組んでいる	グループホーム独自の基本理念として、「自由」「尊厳」「歓び」を掲げ、理念を具現化するための実践目標の中に「生きがいを見出し、地域の中でその人らしい生活ができるよう支援する」という地域密着型サービスの役割や意義を明確にしている。理念・実践目標を職員の目に付きやすいよう玄関ホールに掲示し、ミニカンファレンス・申し送り・職員会議などで日々のケアを振り返り、職員への浸透に努めている。利用者一人ひとりについて能力評価を行い、その人らしい生活ができるよう役割づくりに努め、介護計画にも反映させながら理念や目標の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設が開催する行事に地域住民の方々をご招待している。地域ボランティアの慰問行事や協力を依頼している。又、地域の祭りやイベントに利用者と職員で参加し交流を図っている	地域で開催される秋祭り等への参加・見学、また、施設合同で開催される感謝祭に地域の児童や住民が参加して食事を共にする等の交流を行っている。腹話術・子供落語等の演芸ボランティアの訪問や地域の女性による声楽コンサートも開催され地域との交流を図っている。地域の福祉避難所として場所の開放やAEDの使用啓発を行い、また認知症サポーター養成講座の開催を計画する等地域で必要とされる活動や役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へ出向いて情報を提供する機会は少ないが、施設見学や入所相談に来られた際に認知症ケアや支援方法などの説明を行っている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に開催し委員の方々から助言や要望、意見をいただいている。今期は施設報告以外に毎回テーマを決め地域交流に関連した議題についても話し合い、サービス向上に活かしている	家族代表・民生委員・地域包括支援センター職員・知見を有する者・時には利用者等が参加し、2ヶ月に1回開催している。利用者の状況、事業所の取り組み、研修や防災訓練内容、第三者評価結果や目標達成計画等について報告や意見交換を行っている。また、年間計画として策定した地域交流に関連した議題を前もって構成メンバーに知らせ、多くの意見や助言を得て運営に反映させるよう取り組んでいる。第三者評価受審緩和年度も自己評価を行い、提供しているケア内容を振り返る等サービスの向上にそこでの意見等を活かしている。	
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月、空床状況や待機者数の報告を行っている。転倒等の事故報告書や運営推進会議の議事録を提出している。地域包括支援センターの職員と連携を図り、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加している地域包括支援センターの職員を通じて、事業所の状況や取り組み等の情報提供を行うとともに、法令解釈や運営上の相談で市担当窓口と連絡を取り合ったり、時には市の職員も参加する「グループホーム連絡協議会」で情報交換を行っている。また、市職員来訪のもと、土砂災害や地震対策等について助言を得る等、協力関係が築かれている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会に毎月担当者が参加したり、勉強会を通して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関の施錠については、天候の良い日は玄関の扉を開放し自由に出入りできるよう対応を工夫し、施錠しない時間帯を増やすように試みている	施設内研修の年間計画に盛り込んで、身体拘束がもたらす弊害や、心理的な拘束も含め禁止の対象となる具体的な行為について学んでいる。出席者・欠席者も研修資料熟読後必ず復命書を提出し、全員に周知できるように取り組んでいる。法人の身体拘束廃止委員会にグループホームからも委員が出席し、会議の内容を伝達している。気づきがあれば職員同士がお互いに注意し合いながら見守りの徹底に努め、家族にも身体拘束により予測されるリスクを説明の上、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は安全に配慮しながら、施錠しない時間帯を設けるよう工夫し、施錠時でも利用者の外出希望や気配を感じた時は、職員がさりげなく付き添って外出している。	
7	(6) ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通して高齢者虐待防止関連法についても学び、言動による虐待も含め心理的な虐待等についても意識向上を図り、職員間で互いに注意しながら待遇改善に取り組み虐待防止に努めている	身体拘束に関する研修と同じ方法で高齢者虐待防止関連法についても学び、心理的虐待等についても意識の向上に努めている。管理者は日々職員への声かけを心がけるとともに、希望休や希望に沿ったシフト調整に努め、また、法人として、OJT等で介護技術の向上を図るとともに、有給休暇取得促進や夏季・冬季休暇制度の導入を行い、就業環境の整備に努め、職員の疲労やストレスが利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。入浴時等には、皮下出血等全身の観察に留意し、発見した場合の対応方法や責務を周知徹底し、自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い防止に努めている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7) ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法令順守は勉強会で学ぶ機会を設けている。今年度は権利擁護や成年後見制度について勉強会を実施していないので、職員全員が制度を理解出来るように学ぶ機会を設ける事とする。入所前から成年後見制度を利用されている利用者も数名おられるが、その他の利用者も今後必要な状況となればいつでも支援できる体制にある	管理者やケアマネージャーは外部研修で権利擁護に関する制度について学ぶ機会があり、マニュアルも作成されている。現在、成年後見制度を活用している利用者が数名あり、後見人への状況報告や書類の整理・提供など活用のための支援を行っている。また、新たに活用・支援を必要とする人があれば、併設老健の担当部署や地域包括支援センターと連携していつでも支援できる体制がある。	日々利用者と関わりを持つ職員も、権利擁護に関する制度を理解し、利用者一人ひとりの必要性を話し合えるよう、権利擁護に関する制度について学ぶ機会を持つことが望まれる。
9	(8) ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設見学や入所相談に来られた際に、予め契約の概略を説明している。管理者が契約締結、解約または改定等の際に説明を行い、不安や疑問点があれば対応し理解・納得を図っている	見学時や入所相談時に契約書の内容の概略を説明し、契約時は、先ず理念・実践目標を説明し、契約書を最初から最後まで読み合わせながら説明し理解・納得を図っている。特に利用料や退居条件については誤解が生じないようにしつかり説明している。利用料については別添資料を作成し、介護度別にシュミレーションを行い理解しやすいよう工夫している。契約内容に変更が生じた場合は、根拠を明確にした書面を送り同意を得ている。施設入所等で家族から契約解除の申し入れがあった時は、退居後の支援方法についての情報提供を行なう等円滑な退居のための支援を行っている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書で相談窓口の説明を行っている。毎月発行の「ふれあい通信」発行しご本人の様子を報告している。意見箱の設置やサービス担当者会議出席時や訪問の際などに意見や要望をお聴きし、運営に反映している	毎月「ふれあい通信」に、事業所での生活の様子や健康状態について「職員からの一言」として付け加え、近況を報告している。家族訪問時には、話しやすい雰囲気作りを心がけ、家族が意見・要望等を表せやすいよう努めている。年数回程度、イベント後に家族会を開催しているが、開催前に家族のみでの親睦会を設け、意見等が出やすくなるよう配慮している。また、年に1回程度イベントに対するアンケートを実施し、満足度の把握に努めている。また、3ヶ月に1回サービス担当者会議を開き、家族にも参加を呼びかけ、意見・要望を把握する機会としている。家族会入会金の管理処理方法等、家族からの提案を運営に反映させている。	
11	(10) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催し、事前に職員から意見や提案を募り、当日欠席者も含めて全員の意見が聞けるように配慮して業務内容を改善している	管理者は日常的に職員に声かけを行い、ミニカンファレンス・職員会議等でも職員からの意見・提案の把握に努めている。職員会議では、事前に職員から議題を募り、会議の効率化を図ると共に、欠席者も含めて全員の意見が聞けるように工夫している。必要に応じて管理者と職員間で個別面談を行っている。また、年1回職員へのアンケートを実施し、分析結果を運営に反映させるよう努めている。法人の業務改善委員会に管理者が出席し、業務部長等上位者に管理者・職員の意見等を伝えている。異動は利用者との馴染みの関係に配慮し、最小限にとどめている。居室担当制を維持しながら他ユニット勤務をシフトに採り入れる等、職員からの提案を運営に反映させている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>職員の人員数が確保され休憩時間、有給休暇など取りやすい環境となった。今年度は夏季・冬季休暇の新たな休暇が増し就業環境が整備されている。現職員は新入職員の教育を任すことでやりがいや向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている</p>		
13	<p>○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内外の研修を受ける機会を多く取り入れ、働きながら知識・技術の向上ができるように取り組んでいる。次なるステップアップを図り、介護福祉士やケアマネジャーの資格を取得される職員が増えている</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は管理者連絡会に出席、運営推進会議ではケアマネジャーが相互訪問等の活動を通じて、同業者の情報交換やネットワーク作りを図り、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>面談や入所時、本人の困りごと、不安なこと、要望などを聞き取り、日々の不安が軽減し安心して生活してもらえるために信頼関係を築けるように努力をしている</p>		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面談や入所時に家族の困りごとや不安なこと、要望などを聞き取り、信頼関係を築けるように努力をしている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスを導入する前の面談等でご本人、ご家族の情報を収集し、必要としている支援を見極めている。状況により必要とするサービスの導入は、その都度職員間でカンファレンスしながら対応に努めている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できるだけ日常生活を自分自身で行えるよう援助し、一人ひとりの能力に応じた役割を遂行しながら、その人らしく生活していただけるように支援している。毎回の食事は職員も席を共にして、家庭的な団欒を楽しみながら関係を築いている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が訪問された際には一緒に過ごす時間を大切に団欒を楽しんでいただけるよう支援している。本人と共に外出・外食・外泊の機会を設けていただいたり、必要に応じてご家族対応による病院受診の協力をいただいている		

自己 者	第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所した以降もデイケアで馴染みの人が訪問してくれたり、ご家族と一緒に墓参りや住み慣れた家や場所へ外出されている	入居時に生活歴・趣味・意向等を聞き取り、センター方式の様式を活用して記録として残すと共に、日々の利用者との関わりの中から、今までの利用者地域社会との関係を把握し、電子カルテSOAPに入力して情報を共有している。デイケア時の友人・知人が事業所を訪問した時の対応や、家族に了解を得ての電話の取次、手紙のやり取り支援等馴染みの人との関係継続の支援を行っている。また、馴染みの美容院への家族の同行依頼や外出用車イスの貸与等、家族の協力を得ながら馴染みの場所へ出かけられるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	思い思いに行き来できるユニット横並びの環境を活用し、行事や余暇活動を通して利用者同士の交流を図っている。所々にソファを設置し利用者同士が寛げる環境を整えたり、孤立やトラブルの発生がないか？把握に努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所された施設や入院先の病院へ面会に行く等してサービス利用が終了しても関係性を大切にしている。必要に応じてご本人やご家族の相談や支援に努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で関わりを持ち一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するよう努め、毎月や必要時に担当者や計画作成担当者を中心にカンファレンスを実施し支援の方向性を検討している	入居時のセンター方式を活用してのアセスメント時に利用者・家族の思いや意向の把握に努めている。入居後も日常のコミュニケーションを大切にし、思いや意向を見逃さないように留意し、介護計画更新時のサービス担当者会議に家族の参加を依頼して意向の把握に努め、電子カルテSOAPに入力して情報を共有している。意思の疎通が難しい利用者は、今まで共に暮らしてきた経験・体験をもとにその人の言動・表情等を細かく観察し、利用者の立場になって意向等を話し合いながら時々の状況に応じた支援を行っている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談で知り得た情報やセンター方式を活用し生活歴や利用者・ご家族の思いや意向の把握に努めている		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所1週間は現状把握の為に1時間毎の様子を電子カルテに記入している。必要に応じて暮らしの現状を職員全員が周知できるよう電子カルテへ入力し記録の充実を図り情報を共有している		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	受け持ち担当者を中心にニーズや支援の方向性について情報収集し、ご本人・ご家族からの意向を踏まえながら現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議等での家族の希望や意向を基に、日々の利用者との関わりの中での担当職員や他ユニット職員の気づきも踏まえ、基本的には3ヶ月毎に介護計画を作成している。かかりつけ医、理学療法士、管理栄養士等の意見も計画の作成に活かしている。家族の意向や利用者の状況が変化した時は期間に関係なく現状に即した、新たな介護計画を作成している。介護計画に沿ったケアの実施状況は電子カルテSOAPに実施できていない事項として青字入力して日々確認している。全利用者について1ヶ月毎にモニタリングを行い計画の内容を確認し次の計画に結び付けている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	電子カルテにSOAP入力し、様子やケアの実践・結果・気づきや工夫を個別に記入している。その記録を職員間で情報共有しながら、カンファレンスを実施して介護計画の見直しに活かしている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の老健施設の多職種（PT・OT・ST・他）から専門的知識や支援方法について相談やアドバイスをもらい、既存サービスに捉われない柔軟な支援サービスに取り組んでいる。医療連携体制を整え24時間、利用者の健康管理を行っている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設外周をいつでも気軽に散歩でき、四季を感じられる環境はまさしく地域資源の一つと言える。近郊のレジャー施設やお食事処へ外出するなど暮らしを楽しめるよう支援している		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的に協力病院へ職場の看護師が同行し受診している。入居前からのかかりつけ医の受診を継続している利用者もいる。家族対応で受診に行かれる時には情報提供し、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院に4週間に1回グループホームの看護師が同行して受診している利用者が多いが、入居前からのかかりつけ医の受診を継続している利用者もあり、本人や家族の希望を大切に受診支援を行っている。協力病院以外での通院介助は家族が行うこととして契約時にしっかり話し合っている。家族には「看護サマリー」を提供し、「受診の結果」用紙への記入を家族に依頼して効果的な受診ができるよう支援している。事業所が通院介助を行った時は「ふれあい通信」等で同行看護師が家族に受診結果を報告し情報を共有している。歯科は週1回定期的な往診がある。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の関わりの中で捉えた情報や気づきを職場内の看護師や老健看護師に伝え相談し適切な受診や看護を受けられるように取り組んでいる		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は看護サマリーを作成し病院に情報提供を行っている。入院中は家族へ連絡を取りながら面会に行き、病院関係者と情報交換や相談に努めている。退院前のカンファレンス等に参加したり、看護サマリーの情報提供を受け退院後の生活に活かせるよう関係づくりを行っている	入院時は事業所での暮らしぶり等を「看護サマリー」にして、入院先医療機関に本人の支援方法に関する情報の提供を行なっている。入院中は家族とも連絡を取りながら面会に行き、MSW等関係者と情報交換を行いながら入院によるダメージを防ぎ安心しての受療と早期の退院に向けた支援を行っている。退院前にはカンファレンス等に参加し退院後の生活について話し合い、退院時には「看護サマリー」の提供を受け、退院後の事業所での支援に活かしている。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に「看取りの指針」で重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、同意を得ると共に、家族の意向を確認している。重度化や終末期対応が必要になれば、状況の変化に合わせて主治医や家族を交えて話し合い、納得を得ながら対応していく方針である	契約時に「看取りに関する指針」で重度化した場合や終末期において事業所が対応し得る支援方法の説明を行い、家族等の意向を確認しながら「看取り介護についての同意書」で同意を得ている。重度化・終末期対応が必要になった場合には、主治医・家族を交えて繰り返し対応方針を話し合い、個人記録に記録として残し方針を共有している。また、管理者が看取りに関する外部研修に参加し、復命書を提出している。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践に即した勉強会を開催し実践力を身に付けられるように努めている。事故防止対策委員会を中心に事故発生後には事例検討会を開催し、同様な事故の再発防止に努めている		

自己 番号	第三 者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼夜想定避難・誘導・消火訓練を年2回実施、また市職員の来訪による土砂災害等の勉強会を設けたり災害時の対応を身に付けている。隣接の職員寮や併設老健施設の職員と連携・協力体制を整えている。水や食料等を共同備蓄している	年2回(1回は消防も立ち会って)施設合同での昼夜想定避難・誘導・消火訓練を行っている。訓練には利用者も参加している。法人の年間研修計画に「防災対策」を採り入れ、研修時には、市職員が来訪して防災上の助言を行っている。また、グループホーム職員も、毎月開催される施設内防災委員会へ参加し、「消火器の場所確認」等毎月テーマを決めた話し合いを行い災害時に確実に対応できるように取り組んでいる。立地的に地域の住民の協力が得にくい環境にあるが、地域住民からは「炊き出し」等の協力の申し出を受けている。毎日遅出の職員が防災チェック表に沿って、消火器の前に物が置いてないか等のチェックを行っている。また、水・食料等を共同備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護・人権尊重についての勉強会を通して理解を深め、職員会議などで話し合う機会を設け、人格を尊重した言葉掛けや接遇の改善に努めている。排泄時や入浴時のプライバシーへの配慮を心がけている	マニュアルを整備し、施設内研修の年間計画に「個人情報・プライバシー保護について」を盛り込んで研修を行い、プライバシー保護・人格の尊重について周知徹底に努めている。日々の利用者との係わりの中で、排泄時や入浴時のプライバシーへの配慮に留意している。言葉かけ等で気づきがあれば、職員間でお互いに注意し合いながらプライバシーの確保に取り組んでいる。パンフレットや「ふれあい通信」等への氏名や写真の掲載については家族の同意を得ている。個人情報はパスワードで管理された電子カルテで、個人記録類は職員室の鍵のかかる保管庫に保管し、個人情報の適正な管理に努めている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から思いや希望を表出しやすい関係性を築くように心がけ、個別の関わりの際に意向を確認している。「・・・どちらにしますか?」「・・・しませんか?」と意向を問いかける声掛けを行い自己決定できるように働きかけている		
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースや意向を大切に、利用者主体の生活を重視し日々の暮らしを送れるように支援している		
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は整容の声掛けや介助を行い身だしなみを整えている。定期的な訪問理美容を利用してカットや毛染め、パーマなど好みに応じた髪型をされ、服や装飾品、化粧品などでその人らしいおしゃれができるように家族の協力を得ながら支援している		
40	(19) ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力に応じて食事の準備から片付けの役割を提供し、出来る能力の維持に努めると共に、食事の雰囲気作りを大切にして、BGMをかけたり会話をしながら食事を楽しんでもらえるように支援している	食事は基本的には併設施設の厨房で作られたものが届けられ、グループホームでは炊飯や汁物づくりを行っている。事業所職員も参加する法人の給食委員会で利用者の希望や好み等を話し合っている。月1回程度、利用者の希望に沿って、外出支援を兼ねて外食に出かけている。時には事業所でおやつやお好み焼き・ギョーザ等好みのものを作る機会を設けている。食事づくりの一連の流れの中で、野菜のカット・盛り付け・配膳・お米とぎ・食器洗い等に利用者も参加しており、声かけや場面設定等に一人ひとりの好みや力を活かすよう努めている。職員も同じテーブルで同じ食事を摂り、会話を楽しんだり、食事介助を行なっている。	

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による栄養バランスや季節に応じた献立、食事形態や摂取カロリーに配慮して食事を提供している。水分摂取の不十分な人へは容器の工夫、嗜好飲料やゼリーを提供し一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		
42	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの口腔状態や本人の能力に応じた口腔ケアを毎食後行い清潔保持に努めている。必要時は歯科医に訪問治療や口腔ケアの相談を行っている		
43 (20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間で情報交換や排泄チェック表を活用して、排泄パターンを把握し、昼夜の排泄状況に合わせたオムツ用品の使用・トイレへの声掛け・誘導・ポータブルトイレ設置など行い、一人ひとりの排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者全員排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、各人の排泄パターンに応じた前誘導等、排泄の自立に向けた支援を行っている。事業所独自工夫の夜間転倒防止を兼ねてた「洗濯バサミセンサー」を活用して適時誘導を行い、排泄の失敗をできるだけ防ぐよう取り組んでいる。適正な大きさのパッドの使用や睡眠に配慮しながらのトイレ誘導等で、おむつを可能な限り減らすよう努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や体操や散歩を促し便秘予防に努めている。便秘傾向の人には定時にトイレ誘導し便座に腰掛けてかんでもらう習慣や腹部温罨法、腹部マッサージを行っている。適宜 緩下剤の調整を行い排便コントロールに取り組んでいる		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回、9時30分から16時頃の時間帯で一人ひとりの意向に沿いながら、BGM、入浴剤、入浴後の嗜好飲料を提供し、入浴を楽しめるよう取り組んでいる。入浴を嫌がる人には声掛けの工夫や介助する職員を交代するなど、状況に合わせて個々に沿った支援をしている	基本的には週3回、午前から午後にかけて（9時30分から16時頃）の入浴としているが、利用者の意向に沿った回数・時間帯で、入浴できるよう取り組んでいる。浴槽は広々しており、気の合う利用者同士での入浴や、脱衣場にBGMを流したり、好みの入浴剤等も使用して入浴が楽しめるよう支援している。現在はないが、車いすの利用者等は身体状況に応じて施設の器械浴を利用することができるように配慮している。入浴を嫌がる利用者には、声かけ等を工夫し、無理な日は無理強いはせず清拭などで対応している。異性介助を嫌がる人には同性介助で対応し、二重扉を閉める等、羞恥心やプライバシーへの配慮についても周知している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前の団欒や雑誌やテレビを利用したり、孤独や不安で寝付けない人には職員が居室でゆっくり関わるなど、安心して気持ちよく眠れるように支援している。各々の生活習慣に応じて日中居室で休息が取れるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報書は所定の場所に置き、すぐ確認ができるように工夫し、定期薬の処方変更や臨時薬は、職員全員へ伝達し周知できるように取り組んでいる。職員間でダブルチェックをおこない服薬ミスを防止できるように努めている		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を知り、できる能力の維持に努め、得意な分野で役割を持ち、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように支援している。余暇活動の参加や季節に応じた行事を開催して気分転換が図れるよう支援している		
49	(22) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良いは外気浴や施設外周の散歩ができるよう取り組んでいる。気候の良い季節は外出支援を実施し、戸外に出かけられるよう支援している。普段は行けないような場所への外出を希望される場合はご家族の協力を得ている	施設内敷地が広く、天気の良い日は、敷地内を散歩したり、時には中庭に出てベンチでお茶を楽しみながら外気に触れる機会を作っている。車イス利用者も外出機会が均等になるよう努めている。気候の良い時期は花見・紅葉狩り等の外出行事を企画し、五感刺激による心身の活性化を図っている。定期受診時に外食を兼ねて通院介助を行い、また、バラ公園・花鳥園等普段はいけないような場所にも家族の協力を得ながら外出できるよう取り組んでいる。	
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安な人はご家族の了解の下、小額を自己管理されている。お小遣いは職員が管理し、能力に応じて外出先で買い物などの支払いができるよう支援している		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	数名の人が携帯電話を所持され、家族や知人と連絡を取り合っている。また、必要に応じて施設の固定電話から家族とやり取りできるよう支援している。毎年、年賀状を出したり、施設内で切手やはがきを購入し手紙を出される人もいる		

自己 番号	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(23) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が利用者にとって不快を招かないよう、換気・湿温管理・清掃・整理整頓を心掛け、清潔な環境作りに努めている。ホールの壁には共同作品を掲示したり、玄関や中庭には草花を植栽して季節感をとり入れ、居心地よく過ごせるように工夫している	共用空間は、2ユニットが廊下でつながり、ゆったりと広く、自由に行き来ができ閉塞感が感じられない。また、清潔な環境作りに努めており、利用者に混乱や不快感を抱かせないよう配慮している。玄関前や中庭には季節の草花を園芸療法士と共に植栽したり、リビングには「赤とんぼ」「ぶどう」の貼り絵等、季節感を採り入れている。随所に椅子やソファを配置し、一人でもまたは少人数で思い思いに過ごせるよう配慮している。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や玄関横にベンチを置き、外気浴を楽しまれたり、ホールから離れ職員室前のソファに腰かけてテレビを見て一人寛ぐ光景も見受けられる。廊下の所々にソファを置き利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やご家族の写真、好きなぬいぐるみ等趣味の品を、家族の協力を得ながら、本人が居心地よく過ごせるよう環境作りに努めている	全室が庭に通じる採光のよい居室は、ゆったりとした広さがあり、利用者の使い慣れた家具や道具が持ち込まれている。仏壇や家族の写真、刺繍等趣味の作品や、趣味の写真付きカレンダーなどがあり、家族の協力を得ながら、その人らしく居心地よく過ごせる居室となっている。また、購読新聞を居室に届けてもらい、くつろいでいる利用者もある。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご家族に了解を得て、居室や食事の席がわかるように記名している。トイレの表示、手すりの設置やバリアフリーにすることで安全かつ自立した生活が送れるように支援している		